

# フォーカスチャートを用いた看護記録の監査の導入 — 監査結果から見えてきた課題の報告 —

キーワード：看護記録、フォーカスチャート、看護記録の評価、看護記録の監査

○澁谷公崇、星野麻衣、水野華奈、武田優、富樫真知子、竹内裕昭、大関明子<sup>1)</sup>  
医療法人 水明会 佐潟荘<sup>1)</sup>

## I 目的

看護記録は看護実践の一連の過程の記録<sup>1)</sup>であり、看護実践の説明責任を果たすことが目的である。A 病院では 2006 年からフォーカスチャート（以下 FC）による記録方式を採用し、各病棟の記録委員が記載方法の指導、看護計画の評価の有無などを確認していた。しかしながら、FC による記述内容に関する評価を実施していなかった。そこで本研究では A 病院独自の FC 監査表を作成し、A 病院の看護記録の監査を実施して明らかとなった課題を報告する。

## II 研究方法

### 1) FC 監査表と監査手順

監査表の質問項目は 20 項目である。20 項目の一例を挙げると、①正確な日時の記入②人権侵害する表記がない⑨患者や家族が見ても理解できる⑩造語、略語がない⑬フォーカスを適切に当てている⑭フォーカスを支持する D A R である⑯看護計画が現状に合っている、などである。評価区分は◎（100%～75%）、○（75%～50%）、△（50%～25%）、×（25%～0%）の 4 段階である。監査手順は、FC 監査表の質問を全看護師（74 名）が自己評価した後、各病棟の記録委員が所属病棟全員の看護師の看護記録を監査した上で他者評価を行なった。

### 2) 本研究で扱うデータと分析方法

本研究で扱うデータは、FC 監査表によって得られた自己評価と他者評価の結果である。なお集計の際に◎と○を「できている群」、△と×を「できていない群」に二分した。

### 3) 監査実施日

平成 25 年 9 月に実施した。

表1. 自己評価（数値は人数）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳	
できている群	72	64	51	62	57	51	65	65	51	43	41	50	40	49	29	30	60	66	27	28
できていない群	2	10	21	12	17	23	9	9	23	29	30	24	33	25	44	42	14	8	38	32

表2. 他者評価（数値は人数）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑳	
できている群	74	74	62	73	71	67	74	73	69	64	66	70	61	70	63	44	73	71	45	39
できていない群	0	0	11	1	3	7	0	1	5	10	8	4	13	4	11	30	1	3	19	25

## III 倫理的配慮と個人情報保護

FC 監査表の結果を発表するに当たり A 病院の全研究対象者から同意を得た。また、A 病院における管理者連絡会において承認を得た。

## IV 結果・考察

監査を実施した結果、回収率は 100%であった。

表 1 と表 2 の「できていない群」を比較すると、全 20 項目において自己評価の方が他者評価に比べて人数が多い。つまり、自己評価よりも他者評価の方が高い傾向があったと言える。ちなみに A 病院では、FC を導入してから現在に至るまで、適宜記録委員会が全職員を対象に研修を実施してきた。しかし、記録委員が不在の勤務帯において専門的な指導が行き届かない状況が生じることは避けられない。

これらの状況から、記録委員以外の看護師は FC による記述に自信を感じる事ができていない可能性がある。川上<sup>2)</sup>は「評価結果を個々の看護師にフィードバックすることによって、自己啓発、指導教育に繋げることができる」と述べている。今後は、記録委員が病棟看護師に対して看護記録が適切に記述できていることを褒め、認めていく事が重要である。

## VI 結論

本研究において A 病院では看護師が記述する看護記録に自信を持つことができていない可能性が示唆された。今後は、記述した記録を褒め、認めていくことが必要であることが示唆された。

## 引用文献

- 1) 日本看護協会：看護業務基準, 1995 年
- 2) 川上千英子. ケースで学び活かすフォーカスチャートの実践. p147. 東京都:株式会社 精神科出版;2010.

N=74 \* 欠損データがあるため合計が 74 にならない項目あり

N=74 \* 欠損データがあるため合計が 74 にならない項目あり